

読売 2023.3.16

# がん10年生存率 53.3%

## 国立がんセンター「改善傾向続く」

国立がん研究センターは16日、2010年にかんと診断された患者約34万人の

10年生存率が、53.3%だと公表した。今回からより実態に近い算出方法に

変更した。このため、09年の診断患者が対象の前回調査とは比較できないが、同センターは「生存率が改善している傾向は変わらない」としている。

全国のがん診療連携拠点病院などが参加する「院内がん登録」の大規模データを集計した。

部位別の10年生存率は、前立腺がんが84.3%、乳がん(女性)が83.1%、大腸がんが57.9%、胃がんが57.6%などとなった。また、14~15年にかんと診断された約94万人の5年

●主ながんの10年生存率(%)

	病期				全体
	1期	2期	3期	4期	
胃	77.7	51.6	31.5	6.0	57.6
大腸	80.4	69.2	60.9	11.2	57.9
肝臓(肝細胞)	30.5	18.1	8.0	1.2	20.4
肺(非小細胞)	62.5	28.7	12.7	2.2	30.8
乳(女性)	94.1	85.8	63.7	16.0	83.1
食道	61.2	34.1	15.8	7.3	31.5
膵臓(すいぞう)	28.6	10.3	2.8	0.8	5.4
子宮頸(けい)部	91.9	62.5	53.1	18.6	68.1
子宮体部	92.0	84.4	63.8	16.7	79.3
前立腺	90.6	94.4	87.2	36.9	84.3
膀胱(ぼうこう)	64.8	43.4	28.9	13.3	50.1
全体					53.3

- ・2010年に診断された人が対象
- ・病期は、がんの進行度を示す指標
- ・データは国立がん研究センターのウェブサイトを確認できる
- ・生存率はがんのみが死因となる場合を推定した「純生存率」を記載

また、14~15年にかんと診断された約94万人の5年

生存率は、全体で66.2%だった。

前回までは、がん以外の病気や事故などによる死亡の影響を補正した「相対生存率」で集計していた。実態より高めになりやすくとされる。このため今回は、

純粹にがんのみが死因となる場合を推定した「純生存率(ネット・サバイバル)」で算出した。国際的にも広く使われる指標で、次回以降もこの方法を用いる予定だという。

なお、同センターが参考として今回の10年生存率(全がん)を相対生存率で算出した値は60.5%で、前回より0.3%上昇した。

同センターの若尾文彦・がん対策研究所事業統括は「今、診断された患者は薬物治療などの進歩で、より高い生存率が期待できる。」